

鈴木大拙博士頌壽記念事業報告

雲 井 昭 善

◇本學名譽教授鈴木大拙博士は、昨年十月十八日をもつて、めでたく九十歳の誕辰を迎えられた。博士が、夙に一九〇〇年『大乘起信論』の英譯を發表されて以來、六十年の歲月を閉しているのであるが、その間、和英兩文の述作を通じて廣く大乘佛教を世界に紹介し、東西文化交流の巨大な架け橋としての役割を果され、過ぐる昭和二十四年には文化勳章の榮譽を受けられたことは、改めて紹介するまでもない。本學においては、博士のこの鴻業を仰慕し、かつ稀有の長壽を慶祝するために、昨年春以來、「鈴木大拙博士頌壽記念會」を設け、發起人各位の賛同を得て、その記念事業として記念論文集の出版と記念祝賀會を企畫した。そして、昨秋十月十六日、都ホテルにおける記念祝賀の式典を卜して、記念論文集―佛教と文化―を博士に贈呈し、盛大な記念祝賀會を催すことができた。ここに、記念事業會に寄せられた各位の御助力を謝しつつ、以下、一文を草して記念事業の報告としたい。

博士の學風について、いま多くを語ることはさしひかえない。すでに、記念論文集の序において本學教授山口益氏が述べている如く、そしてまた、記念式典に寄せられた同氏の頌辭（十月十九日の中外日報紙上に掲載）にもあるように禪なる大乘佛教をうちたてられたことであつた。いまま少し具體的に解明

するならば、博士は、常に世界主義の立場に立つて、われわれが西歐に學ぶべき點の多々あることを強調せられながら、しかもそれが、東洋の智慧によつて反省せられるときに、具體的なわれわれの救いとなることを主張された。従つて、佛教學に對する博士の根本的な態度も、あくまで禪に中心をおいた立場であることは勿論であるが、しかもなお、學位論文となつた『楞伽經』のサンスクリット梵文原典の解讀にもみられるように、たんに禪解明の資とすることだけの佛教學に終らなかつた。このことは、その業績のすみずみに、よく窺われるところである。たとえば、大乘佛教の精神を貫ぬく智慧の根源である『般若經』について、或いはまた智慧から慈悲への動向を示す『華嚴經』についても、それぞれサンスクリット原典に溯源してその理解を展開せられている。なおまた、大乘佛教における還相慈悲門の終極の歸結とみられる眞宗の妙好人の世界も、博士にあつては禪の世界であつたという。すなわち博士の佛教學においては、禪宗、眞宗という二つの別個なものが並列的、概念的に考えられなかつたのであり、禪も眞であり眞も禪であるとする立場であつたと言わねばならない。

博士の鴻業は、その諸著作の上に比類なきものをみるのであるが、特に世界の精神文化に貢獻せられた活躍は、特筆に値するものである。もとより、多くの英文の述作を通じて、海外に禪を紹介されたこともさることながら、高齡にもかかわらず、その強靱な精神力と老いてますます旺んな若々しい情熱とが、東西文化交流の大きな原動力となつていたことを、見逃すことはできない。よどむことのない思索、そして未來を見つめる知

性、そうしたものが、老いてなお新鮮な魅力をかもし出す博士のすべてではなからうか。その情熱が、博士をして、滿九十歳を迎えた今日、なおチベット大藏經影印出版事業を完成させ、近くは、教行信證の英譯完成へ驅りたてるではなからうか。このように、過去半世紀にわたる博士の業績のすべては、東西文化交流の巨大な礎石となられたことにつきるであろう。今回の、記念論文集は、言わばこの交流によつて培われたものであったと言つてもよい。

◇記念論文集―佛教と文化―に寄せられた論文は、歐文執筆十八篇、和文執筆十八篇の多きを數えるもので、文字通り、博士の頌壽記念にふさわしい雄篇である。B5 版本文五三〇頁にわたる豪華な美本は、博士の年譜、著作目録を加え記念會代表山口益氏の序によつて飾られている。その論文内容は極めて豊富であり、佛教學、宗教學、哲學、倫理學の各分野に亘つていて、現代文化の素描が一堂に把えられたという感が深い。

いま、これらの諸論文について深く立ちいる紙幅はない。かつまた、それは新刊紹介ということによつて適當な場所が與えられるであろう。ただ、この論文が、海外にあつては第一線に活躍している諸學人、たとえば P・ティリッヒ、E・ベンツ、A・トインビー、E・コーンズ、F・ハイラー、C・ハンフレーズ、G・P・マララセーケラ、J・ラーデル諸氏等によつて飾られていたこと、そのいずれもが一讀に値するものであることは言うまでもない。一方、國內にあつては、宇井、田邊、柴山、久松、西谷各氏による禪及び禪と文化に關する諸論文をはじめ、曾我、金子、宮本、山口、古田諸氏の佛教學關係の論

文、有賀、立花、金松、下村諸氏による哲學、宗教、倫理に關する論文、博士の門弟杉平、坂本兩氏の宗教學論文等、内外の學人によつて飾られている。

◇記念祝賀會は、十月十六日午後五時半より、秋色一きわ映える華頂山麓都ホテル四階の大ホールにおいて盛大に催された。當日は、アメリカ大使の代理として京都アメリカ文化センター館長ジョン・イ・ラインハルト氏をはじめ、駐英フィリップ大使夫妻、宗務總長宮谷法含氏、教學局長訓彌信雄氏、在京の長老牧野虎次氏、曾我量深氏、大西良慶氏等、わが國の學界を代表する諸學人はもとより、學内外の會員約百二十餘名參加のもとに、第一部(記念式典) 第二部(祝賀パーティ)の二部に分けて開催された。式典は、先ず記念會代表山口益氏によつて博士に頌辭が捧げられ、半世紀以上に亘つて歩いてこられたその業績を深い感動をもつて縷々述べつつ、全會員の胸底深く、大拙博士の人間像を彫みこんだ。つづいて前述したように記念論文集『佛教と文化』が萬雷の拍手の中に贈呈された。ひきつづき、宮谷宗務總長の祝辭にはじまつて、アメリカ文化センター館長の祝辭、學界代表宮本正尊氏の祝辭、門弟を代表して杉平顯智氏、大谷大學を代表して藤島達朗學務部長が、それぞれ心からなる祝辭を捧げた。このあと、大拙博士起つて挨拶第一部の式典を閉じた。

祝賀パーティは、このあと引きつづき大ホールで行われた。博士のメインテーブルを正面にして、わが國を代表する學人、各界を代表する人々が十二のテーブルに着席、花園大學長山田無文氏によつて乾杯、盛大なパーティを開幕した。宴たけなわに

して、中島庶務部長司會のもとに、久松眞一氏、駐英フィリッピン大使、訓導教學局長、牧野前同志社總長、京大教授西谷啓治氏、北大教授古田紹欽氏、學界の長老羽溪了諦氏、谷大名譽教授曾我量深氏等々のかずかずのテーブルスピーチがつづき、大拙博士の巨大な人間像が、いろいろの角度から、會員の心にあざやかに焼きつけられた。このあと、大拙博士の感激の謝辭があり、九十五歳の誕辰の到來と再會を會員一同祈念した。最後に、清水寺貫主大西良慶氏の發聲によつて博士の長壽を祝しつゝ萬歳三唱、午後九時すぎ、記念すべき祝賀の幕を閉じ次第たである。

執筆 者 紹 介

- | | |
|-------|------------|
| 佐々木教悟 | 本學短期大學部教授 |
| 中久郎 | 本學文學部講師 |
| 渡邊貞麿 | 本學國文學研究室助手 |
| 舟橋一哉 | 本學文學部教授 |
| 大屋憲一 | 本學宗教學研究室助手 |

近世佛敎 — 史料と研究 —

創刊號目次

- 近世寺院史への視角
「木佛之留」について
黑江の異計(上)
天文日記國別引得(一)
- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 竹田聽 | 千葉乘 | 田香融 | 北西弘 |
|-----|-----|-----|-----|

第二號目次

- 近世佛敎教團の構造的變化
近世眞宗教團の本末構造
時宗末寺帳について
天文日記國別引得(二)
- | | | | |
|------|-----|-----|-----|
| 柏原祐泉 | 千葉乘 | 藤井學 | 北西弘 |
|------|-----|-----|-----|

第三號目次

- 聖達と妙好人
眞宗教學の成立と展開をめぐる一考察
黑江の異計(下)
金地日録(一)
天文日記國別引得
(會費年額五〇〇圓、分賣一三〇圓 會員募集中)
- | | | | | |
|-----|------|------|------|-----|
| 森龍吉 | 石田慶和 | 藪田香融 | 三浦圭一 | 北西弘 |
|-----|------|------|------|-----|

京都市北區小山西元町四一 顯眞學苑内

近世佛敎研究會